



「E-NEWS むらやま」で検索または 右記二次元コードから、バックナンバーも見ることができます。

## 学習指導と生徒指導の一体化による授業づくり

第1回村山地区協議会(兼)第1回学習指導力向上研修会 6月7日(金) 講師：国立教育政策研究所 総括研究官 高橋 典久氏

学校教育において、学習指導と生徒指導は並んで重要な意義をもつものであり、両者は相互に深くかかわっています。学習指導と生徒指導の実践上の視点を関連付けながら、授業を充実させることが、子ども一人一人の可能性を最大限に伸ばすとともに、生徒指導上の諸課題の未然防止につながります。高橋講師からは多くの御示唆をいただきましたので、以下に紹介します。

### 1 生徒指導の実践上の4つの視点を生かした授業における工夫例

(1)自己存在感の感受への配慮	(2)共感的な人間関係の育成	(3)自己決定の場の提供	(4)安全・安心な風土の醸成
学校生活のあらゆる場面で、「自分も一人の人間として大切にされている」という自己存在感を、児童生徒が実感する。	自他の個性を尊重し、相手の立場に立って考え、行動できる相互扶助的で共感的な人間関係を創る。	児童生徒が自ら考え、選択し、決定する、あるいは発表する、制作する等の体験を充実する。	児童生徒一人一人が、個性的な存在として尊重され、学級・ホームルームで安全かつ安心して教育を受けられるように配慮する。
(工夫例) ・「ネームプレート」の活用 ・全員が応答できる発問・助言 ・つぶやきへの注目 ・どんな発言も取り上げる ・どの場面でどの子を活躍させるか事前想定 等	(工夫例) ・友達の意見を傾きながら聴く ・友達の発表が終わるまで待つ ・一人一人を褒める ・常に子供の人間性を認める ・間違った応答も笑わない(否定しない) 等	(工夫例) ・選択場面の設定 ・対立意見を生む発問 ・一人調べの時間の確保 ・視点の明確化 ・考える時間の十分な保障 ・思考過程の分かる板書、ノート 等	(工夫例) ・めあての工夫や見通しをもたせる支援 ・教師との信頼関係づくり ・多様な考えや意見が尊重されるような人間関係づくり 等

### 2 生徒指導を意識した授業

生徒指導を意識した授業をつくるためには、必ずしも新たな実践・特別な手立てを行うわけではなく、日々の授業や学級経営で「当たり前」にしている工夫・配慮を生徒指導の視点で捉え直すことが大切です。例えば、自分の立場を明らかにして話し合う下図のような場面では、「教科指導の視点」と「生徒指導の視点」の両方から手立てを考えることができます。学習活動を「生徒指導の視点」で捉え、意図的に組み込むことで、指導者の言動や姿勢が変わり、日々の授業が変わります。なお、生徒指導の実践上の4つの視点は、1単位時間の授業の中で全てが実現されるのは難しいことです。様々な手立ての工夫を出したうえで取捨選択することが必要です。また、集団の状況や時期を踏まえてウエイトを変えていき、年度の始めや集団が未成熟な段階では「共感的な人間関係の育成」「安全・安心な風土の醸成」を中心に受け入れ、集団が成熟してきたら「自己存在感の感受への配慮」「自己決定の場の提供」を取り入れていくことも考えられます。

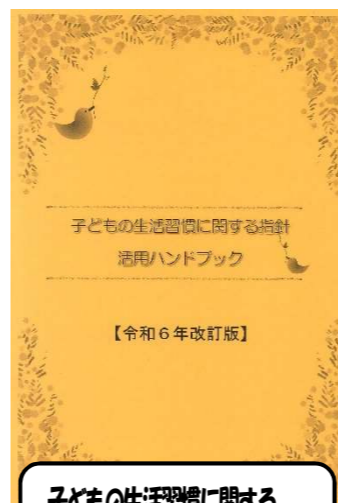
#### (例) 自分の立場を明らかにして話し合う場面



出典：国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター総括研究官 高橋 典久氏作成資料より

※別添の令和6年度「自立した学習者」を育成するための授業改善チェックシートも御活用ください。

## 家庭教育講座・研修で御活用ください!



子どもの生活習慣に関する指針活用ハンドブック

県家庭教育アドバイザーの名簿や家庭教育講座の実践事例(幼保・小中等)が掲載されていますので、研修会等の開催をお考えの際に御参照ください。

家庭教育はすべての教育の出発点です。山形県では、家庭や地域の教育力向上のために、今年度も県内27名の方に家庭教育アドバイザーを委嘱しており、豊富な経験や事例をもとに、ニーズに応じた講座を提供します。

なお、PTA研修会や就学時健診、新入生オリエンテーション等における家庭教育に関する研修等で、講師をお探しの際は御相談ください。また、研修運営についても随時御相談ください。

- ・ハンドブックは各小中学校に1部配布しています。
- ・リーフレットは、各市町教育委員会を通して新入学児童数分の配布を予定しています。就学時健診等での配布をお願いします。その他、研修会等で活用される際には、必要数を送付します(数に限りがございます)。
- ・両資料は県ホームページでも御覧いただけます。



県ホームページへ



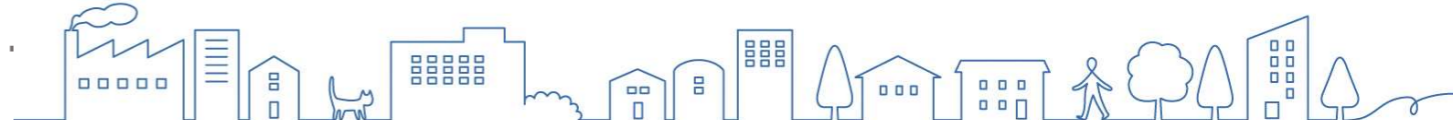
やまがた子育て5か条リーフレット

子どもと一緒に朝起きる時刻等を書き込みながら活用でき、子どもが自分自身の力で育つことを親が支え、主体的な学びにつなげる家庭学習・生活習慣づくりを提案しています。

### 村山教育事務所 WEB サイトについて

指導課では「授業に役立つ情報」、社会教育課では「地域との関わりの中で育まれている活動」についての情報を掲載しておりますので、様々な場面でお役立てください。

○ 指導課 ○ 重点：誰もが安心して学べる魅力ある学校 自立した学習者の育成	○ 社会教育課 ○ 重点：未来をひらく『人づくり』から『地域をつくる人』へ
<p>☆村山教育事務所指導課リーフレット</p> <p>「学校教育指導の重点」</p> <p>☆「自立した学習者」を育成するための授業改善チェックシート</p> <p>☆「指導と評価の一体化」のための学習評価のポイント</p> <p>☆事務所研修情報</p> <p>☆山形県幼児教育研究協議会(村山地区)情報</p> <p>…など</p>	<p>☆家庭教育支援・読書活動の推進</p> <p>☆学校・家庭・地域の連携協働の推進</p> <p>☆地域青少年ボランティア活動の推進</p> <p>☆郷土愛醸成・文化継承(視聴覚・ふるさと塾)</p> <p>☆生涯スポーツの推進 …など</p>



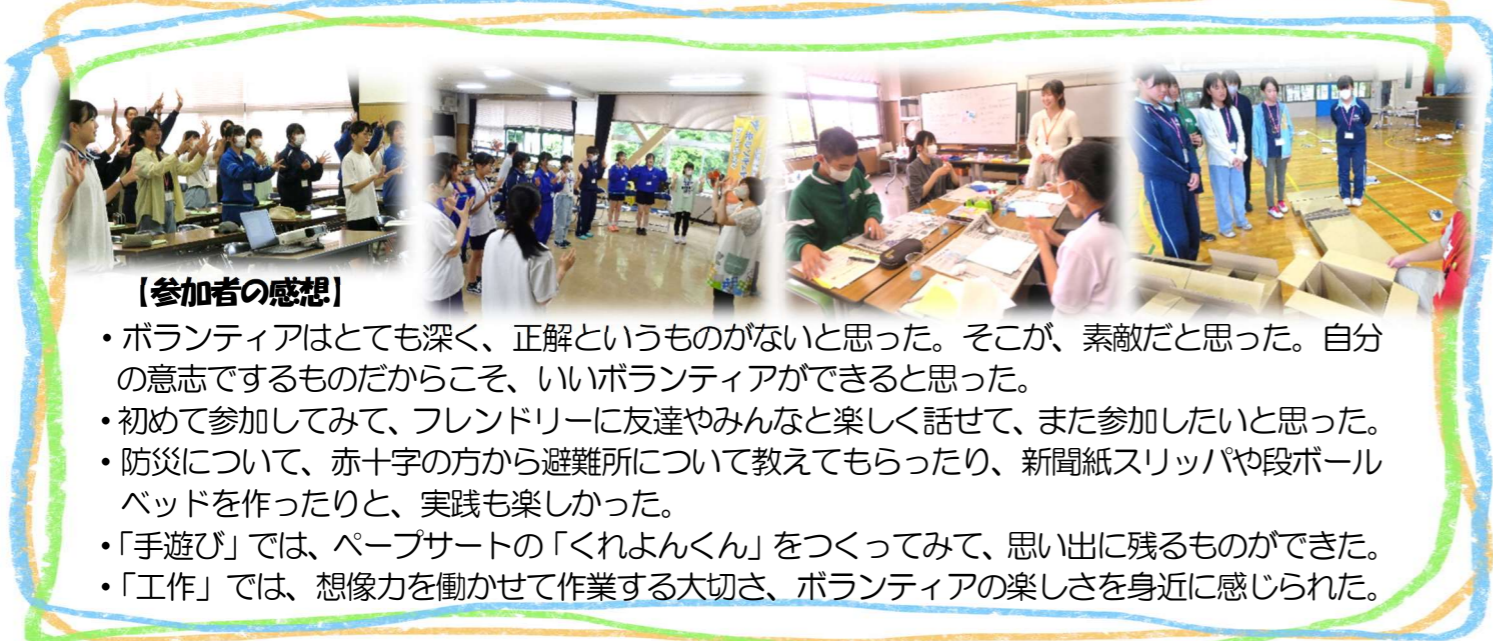
# MY ボランティア スタートアップセミナー

Murayama Young

会場：山形県青年の家



6月23日（日）に村山管内中学生を対象とした、「MY ボランティアスタートアップセミナー」を県青年の家を会場に開催しました。当日は、25名の中学生がボランティアの意義や活動に役立つ技術を学び、他校の生徒ともすぐに打ち解け、楽しみながら積極的に活動していました。



### 【参加者の感想】

- ・ボランティアはとても深く、正解というものがないと思った。そこが、素敵だと思った。自分の意志でするものだからこそ、いいボランティアができると思った。
- ・初めて参加してみて、フレンドリーに友達やみんなと楽しく話せて、また参加したいと思った。
- ・防災について、赤十字の方から避難所について教えてもらったり、新聞紙スリッパや段ボールベッドを作ったりと、実践も楽しかった。
- ・「手遊び」では、ペープサートの「くれよんくん」をつくってみて、思い出に残るものができた。
- ・「工作」では、想像力を働かせて作業する大切さ、ボランティアの楽しさを身近に感じられた。

MY (Murayama Young) ボランティアの一步を踏み出した皆さんが、様々な場で力を発揮することを願っています。

## 子どもたちの放課後を豊かに！

### 第1回 放課後子ども指導者等研修会 会場：寒河江市文化センター

6月11日（火）に開催された研修会の5つの実技講座は、いずれも日常に活かせる内容ばかりでした。「児童クラブ」や「子ども教室」の中で、子どもたちがいきいきと活動する姿が目に見えます。



バルーンアート



運動遊び

### 【第2回 放課後子ども指導者等研修会】

12/4（水）

のお知らせ

※Zoomによるオンライン研修

- ◆講演：特別な支援を要する子どもと保護者への対応（仮題）
- ◆講師：FR教育臨床研究所長 花輪 敏男 氏

「放課後児童クラブ」関係者、「放課後子ども教室」関係者、学校関係者など、たくさんの方々の参加をお待ちしています！



サンキャッチャー作り



リサイクル工作



けん玉遊び

【村山地区家庭教育支援フォーラム 5月10日（金）】

## 10人いれば10通りの受け取り方がある！ ～疑似体験を通して知的・発達障がいへの理解を深めよう～

教職員・幼保関係者、子育て支援関係者など、家庭教育を支援する様々な職種の方々に参加いただきました。知的障がい者啓発隊「花笠ほ一ふ隊」の3名を講師に迎え、視覚支援などの6つの疑似体験を通して研修を深めました。会場が笑い声に包まれる明るい雰囲気の中で、私達が普段よく使う「ちゃん」という言葉でも様々な捉え方、伝わり方があることを体験しました。「障がいのよき理解者」となるための学びを得る機会となりました。

### 【参加者の声】

- ・体験的に学ぶことで、ここまで新たな発見や気づきがあるものかと思いました。今まで理解しているつもりでも、改めて向き合ってみると見えてくるものがあるのだと思いました。
- ・読み聞かせサークル、子ども教室等でメンバーと共有し、「理解しようとする地域の人」になりたいと思いました。町や学校で、「花笠ほ一ふ隊のお話が聞きたい」と要望を出したいと思います。



## 第68回 山形県縦断駅伝競走大会

4月27日から3日間にわたり、第68回山形県縦断駅伝競走大会が行われました。遊佐町をスタートし、ゴールの山形市まで約307kmの29区間で、県内11地区の代表選手がたすきをつなぎました。中学生選手は、最終日に24区と26区に出場し、暑さとの戦いになる中で、全選手が力強い走りを見せていました。沿道からは拍手や横断幕等による応援がランナーに送られていました。選手たちの今後の活躍が期待されます。

☆第24区(米沢ー上郷 3.3km)

チーム	氏名	所属校
上山	坂本結人さん	上山南中
山形	森谷洵太さん	山形五中
天童・東村山	前澤奏良さん	天童三中
寒河江・西村山	佐藤央和さん	河北中
北村山	渡辺翔斗さん	福原中

☆第26区(亀岡ー高島 3.1km)

チーム	氏名	所属校
上山	伊藤駿斗さん	上山南中
山形	鈴木祐磨さん	山形十中
天童・東村山	井藤 慶さん	天童四中
寒河江・西村山	松田昇磨さん	西川中
北村山	五十嵐真那さん	尾花沢中



E-NEWSむらやま 次号(268号)は  
9月中旬に発行を予定しています。